



人類と自然の共存をめざして

国立科学博物館は今、「生き物たちが暮らす地球の環境を守り、自然と人類が共存可能な未来を築くために、どうすればよいか」、みなさまと一緒に考えていきたいと思っています。

地球館 地球生命史と人類

地球の多様な生き物がお互いに深く関わりあって生きている姿、地球環境の変動の中で生命が誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきた道のり、そして、人類の知恵の歴史を展示しています。



1F

地球史ナビゲーター

宇宙史・生命史・人間史の壮大な物語をテーマとした、標本・資料と映像でたどる138億年を一瞥する時間の旅。地球館の展示室全体を繋げるシンボルゾーンとなります。



2F

科学技術で地球を探る

光や磁気などに関する物理学分野を、多数の体験型展示を通して直感的に体感できるよう工夫し、さらに地球物理学的な知識を、磁場など身近な現象を入口に紹介します。



3F

親子のたんけんひろば コンパス

事前に外部サイトでのチケット購入・日時予約が必要です。お子様とその保護者の方を対象とした展示室。「遊び」の中から生まれる親子のコミュニケーションを促し、感じる力、考える力を養うことを目的としています。



1F

地球の多様な生き物たち

多くの種に分かれて進化してきた生物たちが、さまざまな環境に適応し、独自の形態や生活様式を持ちながらお互いに深くかかわりあって生きている姿を紹介します。



2F

科学と技術の歩み

科学技術が、日本固有の文化に根ざしつつ、外国の文化を受け入れながら発展してきた歩みを紹介します。



3F

大地を駆ける生命

地球環境の豊かさの証として、さまざまな哺乳類と鳥類の存在があります。力強く生きていたときの彼らの姿が、今もその魅力をたたえています。



B1F

地球環境の変動と生物の進化 —恐竜の謎を探る—

現代の爬虫類と鳥類は全く異なる生き物ですが、恐竜の研究を通してその進化の連続性が次々と明らかになってきました。恐竜の起源、大型化、多様化、絶滅とその謎はつきません。もの言わぬ化石から、私たちはどれだけの証言聞き出すことができるのでしょうか。



B2F

地球環境の変動と生物の進化 —誕生と絶滅の不思議—

およそ40億年前に誕生した生命は、大きく変動する地球環境の中で誕生と絶滅を繰り返して進化を遂げてきました。恐竜の絶滅後に大発展した哺乳類の中から人類が生まれ、世界にひろがりました。その進化の道のりをたどります。



B3F

自然のしくみを探る

広大な宇宙や神秘的な生命、それを構成する物質と、これらを支配する法則—それらを知ることは、すべての科学的認識の基礎といえるでしょう。私たちの視野を広げ、自然についての理解を変えてきた探究の成果と、それに貢献した人々を紹介します。

日本館 日本列島の自然と私たち

日本列島の自然と生い立ち、そこに暮らす生き物たちの進化、日本人の形成過程、そして私たちと自然のかかわりの歴史を展示しています。



1F

自然をみる技

移り変わる季節と多様な自然の中で培われた細やかな観察眼と、日々の生活の中で育まれたものづくりに対する獨創性。自然をみる技を通じて、日本人の科学と技術に関わる活動の跡をたどります。



2F

生き物たちの日本列島

約170万年前から続く氷期と間氷期の繰り返しの中で、大陸から日本列島に移り住んだ生き物たちが、日本列島の複雑な自然環境に適応しつつ独自の分化を遂げた様子を紹介します。



3F

日本列島の素顔

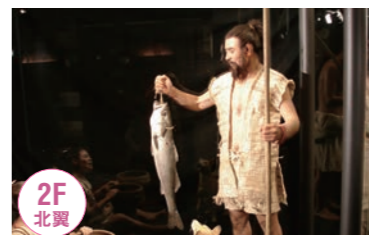
四季の変化に恵まれ、季節風と海流の影響を強く受ける日本列島。ここでは地殻変動と火山活動も活発です。その複雑な自然環境は、多様な生き物たちを育んできました。日本列島の豊かな自然の姿を紹介します。



1F

企画展示室

季節毎に様々な企画展示やイベントを開催します。



2F

日本人と自然

約4万年前、私たちの祖先は、森と海の恵みにあふれた日本列島を見いだしました。この豊かな自然の中で今日の日本人が形成された過程と、自然とのかかわりの歴史を紹介いたします。



3F

日本列島の生い立ち

数多くの生き物たちが繁栄と絶滅を繰り返してきた日本列島。地層に刻み込まれた生き物たちの痕跡は、この列島が成立するまでのダイナミックな変動の歴史を物語ってくれます。



B1F

シアター 360

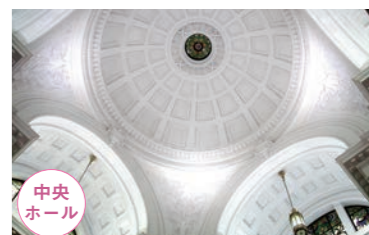
360度全方位に映像が映し出され、独特の浮遊感や迫力が味わえる映像施設です。当館オリジナルのプログラムをご覧ください。
※映像の特性上浮遊感やスピード感があり、ご気分が悪くなるおそれがあります。特に、「小さいお子様」「体調のすぐれない方」「妊娠中の方」「高齢の方」「心臓疾患をお持ちの方」などは充分ご注意ください。
また、「飲酒されている方」「付き添い者のいない未就学児童」「未就学児童の団体」のご入場はご遠慮願います。



B1F

フーコーの振り子

この展示では、振り子の揺れる方向が変わっていく様子が観察できます。物理学者フーコーはこの振り子で地球の自転を証明しました。



中央ホール

日本館建物

日本館は、昭和3(1928)年4月に着工し、昭和6(1931)年9月に竣工。文部省大臣官房建築課の設計によるネオルネサンス様式を基調とした建物で、当時の科学技術の象徴であった飛行機型のデザインとなっています。
※国指定重要文化財